

福岡国際マラソン2022

【出場結果】

実施日 : 12月4日(日)

コース : 福岡朝日国際マラソンコース 平和台陸上競技場～福岡市西南部周回～香椎折り返し
(42.195 km)

出場者 : 加藤 平 坪井 響己

リザルト:

LAP ()は5 km毎のLAP	加藤	坪井
5 km	15'06"	15'45"
10 km	30'23" (15'17")	31'43" (15'58")
15 km	46'02" (15'39")	47'48" (16'05")
20 km	1:01'49" (15'47")	1:04'02" (16'14")
ハーフ	1:05'19"	1:07'36"
25km	1:17'57" (16'08")	1:20'30" (16'28")
30 km	1:34'43" (16'46")	1:37'50" (17'20")
35 km	1:51'14" (16'31")	1:55'49" (17'59")
40 km	2:07'43" (16'29")	2:15'40" (19'51")
GOAL	2:15'06"	2:25'06"
順位	15位/53名 (途中棄権 20名) 日本人8位	45位/53名 (途中棄権 20名)

【レポート】

福岡国際マラソンは財政の厳しさを理由に昨年度の大会で一度は歴史に幕を下ろすことが決定していましたが、福岡県や福岡陸上競技協会が大会実行委員会として主催者に入るなど、新たな運営体制が敷かれたことにより、一転して大会の存続が実現しました。

今年の開催が実現した本大会ですが、コロナ禍で二年前から規模を縮小しての開催が継続されており、今回も参加資格は2時間24分以内の公認記録を保有し、且つ申込者タイム上位110名に限定という狭き門となっているため、一般の市民ランナーが出場するには非常に厳しく、当日の参加者は参加枠110名を下回る79名のエントリーでの開催となりました。

当社からは加藤と坪井の2名が今年の締め括りのレースとして、自己ベスト更新を目標に出場しました。

加藤は昨年の同大会で記録した自己ベストの2時間14分16秒を更新する2時間12分切りを目標とし、坪井は来年3月に開催を予定している東京マラソンのエリート枠での出場を狙って、2時間18分切りを目標としてレースに臨みました。

当日は北風が吹き荒れ、中盤以降は向かい風となる難しいレースコンディションとなりましたが、加藤は2時間12分切りを達成するために、序盤から1km3分前後のハイペースでレースを進め、一方の坪井は1km3分10秒切りのペースで確実に刻んで、後半の落ち込みを最低限に留めることを主眼に置いてレースを進めました。



2時間12分切りを目標に序盤からハイペースを刻む加藤



後半の落ち込みも視野に入れ、落ち着いた走りをする坪井

2名とも中間地点（ハーフマラソン）までは、軽快にラップを刻み、加藤が1時間5分19秒、坪井が1時間7分36秒で通過し、目標設定タイムをクリアするには十分なペースで走っており、レースは後半を迎えます。



向かい風にも負けず、力強い走りを見せる加藤



積極的に集団を引っ張る坪井

25 kmまでは設定通りのペースを刻んでいた加藤と坪井ですが、向かい風に風向きが変わったレースの後半は、冷たい北風の影響を受け、軽快に刻んでいたラップも落込み始めました。

しかし、加藤はここから粘ってペースの落込みを最低限に留めると、前方から落ちてくる選手を次々と抜きながらリズム良くレースを進めました。

坪井は30 km以降、完全に身体が固まってしまい、大幅にペースが落ちてしまいましたが、懸命にゴールを目指して走りました。

結果、加藤は力強い走りが最後まで衰えず、総合 15 位（日本人選手 8 位）の 2 時間 15 分 6 秒でゴールし、坪井は冷たく吹き付ける風に体力を奪われ、最後は低体温状態に陥りましたが、何とか最後まで走り切り 2 時間 25 分 6 秒でのゴールとなりました。



日本人選手 8 位を死守し、ゴールに向かう加藤



2名とも厳しいレースコンディションの中、お疲れ様でした！！

【総 評】

結果として2名とも記録では目標を達成することは出来ませんでした。加藤は厳しいコンディションの中を日本人選手のうち8番目でゴールし、記録以上に価値のある結果となりました。

次戦は来年3月に行われる東京マラソンとなり、今回達成出来なかった目標記録をクリアしてくれることを期待しています。

坪井は後半に失速してしまい悔しいレースとなりましたが、悔しさこそ次のレースへの活力となるため、今回の経験を糧にして成長した坪井の活躍を楽しみに待ちたいと思います。

今後とも、皆様の温かいご声援をお願い致します。